

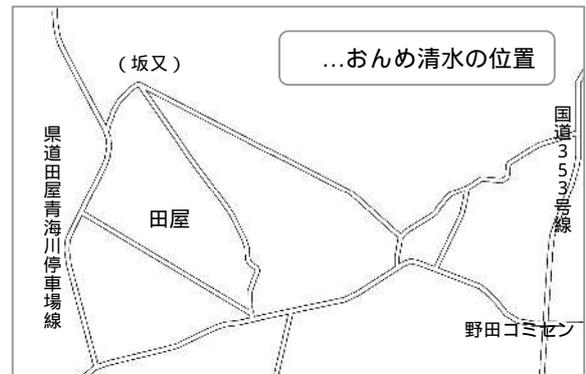
「柏崎の水」

坂又（田屋） おんめ清水

【 おんめ清水伝説 】 その昔、水上山に長者の住む屋敷があり、「おんめ」という女性が働いていた。おんめは水汲みや洗濯などの仕事をしていたが、誤って井戸に落ちて死んでしまった。このため、おんめがいつも水汲みをしていた井戸を「おんめ清水」と名付けて祀った。1年後、坂又の神主さんの夢に「坂又におんめが行きたがっている」という知らせがあったので、坂又のよこまくら山の入口に祀った。そこから湧き出る水を飲むと病気が治ったという。（「柏崎市伝説集」）

おんめ清水は、県道 田屋青海川停車場線沿い、坂又小規模水道貯水槽の奥の林にある。そこでは竜の形をした水口から清水がこんこんと湧き出し、傍には苔生した不動明王が祀られている。清水から一段高くなった場所には灯籠のようなものと高さ2mほどの神徳碑が建つ。碑の裏面には「稻荷大明神」の文字と信徒の方々の名が刻まれている。かつては年一度この場所に信徒の方々が集まり、おまつりが行われていたという。それらの行事は途絶えてしまったが、稻荷神社神主さんの身内の方により、周囲の清掃や冬囲いなどが現在でも行われ、清水の近辺は整った佇まいを見せる。

また、碑には「元御梅清水」とも刻まれている。御梅清水とは水上に残るお梅清水伝説に出てくる湧き水であり、そこに祀られていたご神体が昭和初期に坂又のおんめ清水へ移された。ご神体を運ぶ行列は大雨のなかを進んだが、おんめ清水に到着した途端、ぴたりと雨が止んだという。



碑のそばには石祠が建つ。そこには、八坂神像・異形不動尊・稻荷社祠とともに、^{きっしょうてん}吉祥天像の刻まれた石塔が祀られている。吉祥天の左右には「大穴持乃命」「^{おんめ}御女清水」の文字、頭上には弁財天の使者である蛇の彫刻がある。当地における信仰との関連は不明であるが、大穴持乃命は農耕信仰、弁財天は水神信仰に通じているといわれ、「柏崎の石仏さん」の著者・笹川芳三氏も次のように述べている。「オンメ清水は、この山里にとって貴重なものであった。生活用水としての養い水になり、田んぼにかける命水の役割をになってきた。」石塔裏面の銘文には「昭和五年十一月 祈禱繁栄」とある。昭和5年の9月には米価の大暴落が起きるなど、当時は農村の困窮が深刻だった。ここには繁栄への切なる願いが込められているのであろう。



おんめ清水
中央奥が不動明王



吉祥天像
（「米山の水」所収）

参考にした本

- 「ふるさと」黒姫村立城北中学校郷土クラブ 編（224 ㊦）
- 「黒姫この里で」植木昭吾・西須順作 編（224 ㊦）
- 「柏崎の石仏」柏崎市立博物館 発行（383 K㊦）
- 「石仏のまち」を歩く」阿部茂雄 著（387 ㊦）
- 「米山の水」柏崎市ガス水道局 編（518 K ㊦）